

令和3年度  
劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)  
成果報告書

|               |                    |             |
|---------------|--------------------|-------------|
| 団 体 名         | 公益財団法人長岡市芸術文化振興財団  |             |
| 施 設 名         | 長岡リリックホール          |             |
| 助 成 対 象 活 動 名 | 公演事業・人材養成事業・普及啓発事業 |             |
| 内 定 額 ( 総 額 ) | 19,613             | (千円)        |
|               | 公 演 事 業            | 13,583 (千円) |
|               | 人 材 養 成 事 業        | 2,434 (千円)  |
|               | 普 及 啓 発 事 業        | 3,596 (千円)  |

(1) 令和3年度実施事業一覧【公演事業】

| 番号 | 事業名   | 主な実施日程                | 概要<br>(演目、主な出演者、スタッフ等)                                 | 入場者・参加者数 |      |
|----|---|-----------------------|--|----------|------|
|    |   | 主な実施会場                |  | 目標値      | 実績値  |
| 1  | 小山裕幾<br>フルート・リサイタル                                | 令和4年1月16日※            | 出演／小山裕幾、斎藤龍(ピアノ)<br>曲目／シャミナード:コンチェル<br>ティーノ ほか         | 目標値      | 560人 |
|    |   | 長岡リリックホール<br>コンサートホール |  | 実績値      | 416人 |
| 2  | 池上英樹&塚越慎子 マリ<br>ンバデュオコンサート                        | 令和3年5月22日             | 池上英樹、塚越慎子<br>曲目／吉松隆:アトム・ハーツ・ク<br>ラブ・デュオ Op70a、ほか       | 目標値      | 560人 |
|    |   | 長岡リリックホール<br>コンサートホール |  | 実績値      | 419人 |
| 3  | 文学座公演「ウィット」                                       | 令和3年6月19日             | 演出／西川信廣<br>出演／新橋耐子、富沢亜古、張平、<br>斎藤志郎、木場允視、ほか            | 目標値      | 360人 |
|    |   | 長岡リリックホール<br>シアター     |  | 実績値      | 211人 |
| 4  | 大野雄二&ルパンティッ<br>クシックス Lupintic<br>Jazz Night       | 令和3年6月24日             | 大野雄二(ピアノ)、市原康(ドラム)、<br>長岡道夫(ベース)、松島啓之(トラ<br>ンペット)、ほか   | 目標値      | 400人 |
|    |   | 長岡リリックホール<br>シアター     |  | 実績値      | 379人 |
| 5  | 鼓童×悠久太鼓長岡青悠<br>会 和太鼓演奏会                           | 令和4年2月12日<br>及び2月13日※ | 出演／太鼓芸能集団「鼓童」(小編<br>成)、悠久太鼓長岡青悠会<br>曲目／「春風」、「遥か」、ほか    | 目標値      | 800人 |
|    |   | 長岡リリックホール<br>シアター     |  | 実績値      | 691人 |
| 6  | 万作の会 狂言公演   | 令和3年9月16日             | 演目／千鳥、六地藏<br>出演／万作の会(野村万作、野村萬<br>斎、石田幸雄、ほか)※           | 目標値      | 400人 |
|    |   | 長岡リリックホール<br>シアター     |  | 実績値      | 398人 |
| 7  | 澤クワルテットコンサ<br>ート                                  | 令和3年10月2日             | 出演／澤クワルテット、大瀧拓哉<br>曲目／シューマン/ピアノ五重奏曲<br>変ホ長調 Op.44 ほか   | 目標値      | 420人 |
|    |   | 長岡リリックホール<br>シアター     |  | 実績値      | 302人 |
| 8  | a la Collection シリー<br>ズ vol.12「紙屋悦子の青<br>春」 長岡公演 | 令和3年10月16日            | 作／松田正隆、演出／藤井ごう<br>出演／平体まひろ、清原達之、枝元<br>萌、藤原章寛、長谷川敦央、ほか  | 目標値      | 360人 |
|    |   | 長岡リリックホール<br>シアター     |  | 実績値      | 155人 |
| 9  | 長岡リリックホール開館<br>記念コンサート                            | 令和3年10月31日            | 出演／五十嵐郊味、佐藤晶子、鈴木<br>至門、鈴木俊介、馬場崇、ほか<br>曲目／プッチーニ:「トスカ」ほか | 目標値      | 560人 |
|    |   | 長岡リリックホール<br>コンサートホール |  | 実績値      | 422人 |
| 10 | うたたねクラシック   | 令和3年11月6日             | 出演／遠藤真理、林美智子、川久保<br>賜紀、三船優子、ふかわりょう<br>曲目／ドビュッシー:夢 ほか   | 目標値      | 560人 |
|    |   | 長岡リリックホール<br>コンサートホール |  | 実績値      | 298人 |

|    |                            |                       |  |     |       |
|----|----------------------------|-----------------------|--|-----|-------|
| 11 | 東京フィルハーモニー交響<br>楽団 長岡特別演奏会 | 令和3年11月21日            | 指揮/広上淳一、ピアノ/阪田知樹                                     | 目標値 | 600人  |
|    |                            | 長岡市立劇場<br>大ホール        | 曲目/リスト:ピアノ協奏曲第2番、<br>ラフマニノフ:交響曲第2番 ※                 | 実績値 | 944人※ |
| 12 | 小曽根真 ジャズ・クラシ<br>ックコンサート    | 令和3年12月4日             | 出演/小曽根真  | 目標値 | 560人  |
|    |                            | 長岡リリックホール<br>コンサートホール | 曲目/Gotta Be Happy、Need To<br>Walk、Always Together ほか | 実績値 | 519人  |
| 13 | 第19回リリックホール<br>コーラスフェスティバル | 令和3年12月12日            | 新型コロナウイルス感染症の影響に<br>より公演中止                           | 目標値 | 600人  |
|    |                            | 長岡リリックホール<br>コンサートホール |  | 実績値 | ※     |
| 14 | リリック・ジュニアフェ<br>スティバル2021   | 令和3年12月19日            | 出演/長岡少年少女合唱団 ほか                                      | 目標値 | 400人  |
|    |                            | 長岡リリックホール<br>コンサートホール | 曲目/ドビュッシー:夢、ショパン:<br>ワルツ作品64-2 ほか                    | 実績値 | 310人  |

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和3年度実施事業一覧【人材養成事業】

| 番号 | 事業名                           | 主な実施日程   | 概要<br>(演目、主な出演者、スタッフ等)  | 入場者・参加者数 |                                 |
|----|-------------------------------|--|---|----------|---------------------------------|
|    |                               | 主な実施会場   |   | 目標値      | 実績値                             |
| 1  | 仲道郁代プロデュース 第3回「三善晃記念 響き合うピアノ」 | 令和4年1月29日<br>令和4年1月30日<br>令和4年3月19日<br>令和4年3月20日 | 対象/15歳~30歳(オーディションにより選抜)<br>講師/仲道郁代、高見秀太郎<br>内容/講座・ワークショップほか  | 目標値      | 入場者数<br>/250人<br>参加者数<br>/20人   |
|    |                               | 長岡リリックホール<br>コンサートホール                            |   | 実績値      | 入場者数<br>/250人<br>参加者数<br>/20人   |
| 2  | 文学座 演劇活性化事業                   | 令和4年2月19日<br>及び2月22日                             | 講師(2/19)/生田みゆき、鬼頭典子<br>出演(2/22)/高橋ひろし、山崎美貴、<br>内容/演劇ワークショップ(2/19)、<br>岸田國士小品選「明日は天気」、「是名優哉(これめいゆうかな)」(2/22) | 目標値      | 参加者数<br>/330人                   |
|    |                               | 長岡リリックホール<br>シアター                                |   | 実績値      | 入場者数<br>/95人<br>参加者数<br>/15人    |
| 3  | 長岡少年少女合唱団育成事業                 | 通年<br>(毎週水曜日、土曜日)                                | 対象/小学生から高校生<br>内容/週2回の定期練習、演奏会出演など<br>講師/中村美智子、箕輪美帆   | 目標値      | 入場者数<br>/1,000人<br>参加者数<br>/50人 |
|    |                               | 長岡リリックホール<br>第1スタジオほか                            |   | 実績値      | 入場者数<br>/498人<br>参加者数<br>/42人   |
| 4  | ジュニア・ミュージカル育成事業               | 通年(隔週)   | 対象/小学生から高校生<br>内容/ミュージカル練習・公演<br>講師/ミュージカルカンパニー・イツフォーリーズ所属俳優、及び地元指導者  | 目標値      | 入場者数<br>/420人<br>参加者数<br>/45人   |
|    |                               | 長岡リリックホール<br>第1スタジオほか                            |   | 実績値      | 入場者数<br>/281人<br>参加者数<br>/24人   |
| 5  | ジュニアストリングオーケストラ育成事業           | 通年(隔週)   | 対象/小学生から高校生<br>内容/月2回の定期練習など<br>講師/佐々木将公(ヴァイオリン)、阿部智子(ヴァイオリン)、加野晶子(ヴィオラ)、片野大輔(チェロ)                          | 目標値      | 入場者/<br>100人<br>参加者数<br>/30人    |
|    |                               | 長岡リリックホール<br>第1スタジオほか                            |   | 実績値      | 31人                             |
| 6  | 1日限りの吹奏楽部 in 長岡               | 令和4年3月13日  | 対象/吹奏楽経験者<br>講師/高橋秀典(指揮者)<br>曲目/スーザ/士官候補生、J.ウィリアムズ/GREAT MOVIE ADVENTURES                                   | 目標値      | 50人(参加者)                        |
|    |                               | 長岡リリックホール<br>全館                                  |   | 実績値      | 31人                             |

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和3年度実施事業一覧【普及啓発事業】

| 番号 | 事業名                          | 主な実施日程                   | 概要<br>(演目、主な出演者、スタッフ等)  | 入場者・参加者数 |                 |
|----|------------------------------|--------------------------|---|----------|-----------------|
|    |                              | 主な実施会場                   |   | 目標値      | 実績値             |
| 1  | リリック子ども音楽館<br>東京フィルわくわくコンサート | 令和4年7月11日                | 出演／東京フィルハーモニー交響楽団、岸本祐有乃（指揮）<br>曲目／アンダーソン／トランペット吹きの休日 ほか ※                 | 目標値      | 入場者数<br>／600人   |
|    |                              | 長岡リリックホール<br>コンサートホール    |   | 実績値      | 341人            |
| 2  | 東京フィルアウトリーチ<br>コミュニティコンサート   | 令和4年10月14日<br>及び10月15日 ※ | 出演／東京フィルハーモニー交響楽団（弦楽八重奏）<br>曲目／エルガー／愛の挨拶ほか                                | 目標値      | 参加者数<br>／820人   |
|    |                              | 市内公共施設各所                 |   | 実績値      | 407人            |
| 3  | 地元アーティスト<br>学校アウトリーチ         | 令和3年5月31日～<br>11月25日（木）  | 出演／アンサンブル・オビリー、五十嵐郊味、佐藤晶子、金子陽子、高橋朝子、池田聡子、本間美恵子、若杉百合恵                      | 目標値      | 参加者数<br>／1,200人 |
|    |                              | 長岡市内小中学校                 |   | 実績値      | 1,219人          |
| 4  | 0歳からのミニコンサート                 | 令和3年12月11日               | 出演／五十嵐郊味、高橋朝子、ほか<br>曲目／幸せなら手をたたこう、おもちゃのチャチャチャ、手のひらを太陽に、アヴェ・マリア、ほか         | 目標値      | 入場者数<br>／100人   |
|    |                              | 長岡リリックホール<br>コンサートホール    |   | 実績値      | 191人            |
| 5  | リリックホワイエコンサート                | 令和3年7月5日<br>及び7月7日       | 出演（5日）／佐藤晶子、金子陽子、<br>出演（7日）／アンサンブル・オビリー<br>曲目／映画『ピノキオ』より星に願いを、ピアソラメドレー ほか | 目標値      | 入場者数<br>／200人   |
|    |                              | 長岡リリックホール<br>ホワイエ        |   | 実績値      | 101人            |

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

| 自己評価  |
|---|
| <p>社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>   |
| <p>長岡リリックホールは、元芸術顧問・故 三善晃氏の提言「みんなのホール」をコンセプトに、地域に開かれた芸術文化の拠点施設であり、事業の中心に据えているのは、「まちづくりはひとづくり」という人材育成の大切さを説いた長岡藩大参事・小林虎三郎の「米百俵」の精神に基づく、人材育成事業としている。年間を通じて幅広い年齢層の市民に、様々な会場で市民と交流しながら芸術文化に触れる機会を提供した。さらに、合唱、ミュージカル、弦楽器の分野でジュニア育成事業を推進し、子供たちの情操・人材育成に力を入れて事業を組み立てた。</p> <p>演劇、音楽、伝統芸能など、偏ることのないよう事業計画を行い、鑑賞の機会や参加の機会を予定どおりに提供できた。</p> <p>（主な事業の組み立て）</p> <p>○市民協働事業の推進</p> <p>地元文化団体や指導者等と連携し、普段、芸術文化に携わる機会が少ないと思われる世代に、学校アウトリーチやホワイエコンサートなど、親しみやすい形式を工夫し、芸術文化に触れる機会を提供した。また、長岡リリックホール開館 25 周年を迎え、地元出身アーティストと世界的なアーティストとの共演企画などを多く実施した。</p> <p>○ジュニア育成事業の推進</p> <p>未来を担うジュニア世代の情操と人材育成のために、芸術文化に親しむ場と技術向上の機会を提供した。また、プロのアーティストと共演する機会を提供し、出演者等との交流や仲間づくりを推進した。</p> <p>○幅広い鑑賞事業</p> <p>乳幼児から高齢者、障害を持った人や外国人等、さまざまな人がストレスなく芸術文化を楽しみながら鑑賞できるよう、様々なジャンルの公演事業を行った。また、青少年招待事業により、家庭環境や経済的にホールへ来ることができない人を支援した。</p> <p>○地域拠点事業の活用</p> <p>東京フィルハーモニー交響楽団や劇団文学座のネットワークやノウハウを活用し、地域に根付いた訪問公演やワークショップを開催した。プロのアーティストが市民と積極的に交流し、新たな誘客につながった。</p> |
| <p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>   |
| <p>芸術文化活動が本来備える「爽快感」や「達成感」のほか、「他者との連帯感等の精神的充足」という観点に加え、社会的意義として、青少年の心身の健全な発達を促し、コミュニケーション能力の育成や多様な価値観を認めあう機会を与えることを念頭に事業を展開した。</p> <p>主に文学座の俳優による、演劇的手法によるコミュニケーションに特化したワークショップにより、他者の心情を思いやる重要さを学んだ。また、同様な悩みを持つ楽器愛好家や子育て世代、同世代が集う催しを実施することで、新たなコミュニティや仲間づくりに寄与することができた。特に「リリックジュニアフェスティバル」「1 日限りの吹奏楽部」を実施することで、子どもたちの同世代が集う場やブランクはあるが楽器の演奏を再開したい人材が集う場を提供し、それぞれに活発な交流の場を提供することができた。また、「響き合うピアノ」では、演奏技術の向上のみではなく、受講者が将来向かうべき方向性のヒントを提供することができた。</p> <p>芸術文化の主体は個人であるが、ひとたび表現や交流の場を得た場合には、他の人々の心に働きかけ、ひいては社会に広がっていく大きな力となることを様々な事業体験から発信することができた。</p>  |

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

#### (公演事業)

○来場頻度の少ない19歳以下の入場者数を前年比20%向上させる。

新型コロナウイルスの影響は、未だ収束の目途は立っておらず、入場者数はコロナ以前と比較すると減少している。しかし、19歳以下の入場者数については、前年度から44%増と目標を大きく達成することができた。これは、青少年の鑑賞サポートや地元出身者を多く起用した今年度の企画が幅広い世代に受け入れられたものと推測している。

○市民参加型事業参加者の参加満足度（充実度）80%を達成させる。

新型コロナウイルスの影響により、当初予定していた事業番号11「東京フィルハーモニー交響楽団 長岡特別演奏会」が市民参加型からの内容変更、また、事業番号13「第19回リリックホールコーラスフェスティバル」が中止となったことで、事業番号5のみの結果となるが、アンケートによる回答で87%の参加者が大変良かったと回答し、目標を達成できた。

#### (人材育成事業)

○ジュニア育成事業における参加者数を前年比20%向上させる。

新型コロナウイルスの影響が大きく、学校でのクラスターの事例などから、学校の垣根を超えた活動は厳しく、ウイルスの流行以降は、思うように参加者を集められていないのが現状で、前年度比2%増に留まり目標を達成することができなかった。

○事業参加者における参加満足度（充実度）80%を達成させる。

当該事業の参加者へのアンケート結果で、84%の参加者が大変良かったと回答するなど目標を達成することができた。参加者からは次回の開催を期待する声が多く、当財団の人材育成プログラムが一定の成果をあげていると推測できる結果となった。

#### (普及啓発事業)

○当該事業を体験した参加者が事業を通じて、芸術文化事業の継続体験を希望する割合70%を実現させる。

全普及啓発事業を対象にアンケート調査による設問を設けたところ、ほぼ全員(99%)がまた参加したいと回答している。これは、事業を体験した参加者が内容に十分に満足し、次回への期待感から回答したものと推測できるため、うれしい結果となった。実際にはじめてクラシック音楽の演奏会に参加した方が東京フィルの有料公演を鑑賞されたといった事例もある。

○当該事業を体験した参加者が事業を通じて、学校の授業以外でも芸術文化を学びたいと希望する割合70%を実現させる。

事業番号3「地元アーティスト 学校アウトリーチ」の参加者にアンケート調査による設問を設けたところ、74%の児童・生徒が、学校以外でも音楽を体験してみたいと回答している。目標①と同様に、アウトリーチコンサートの内容が子どもたちに受け入れられ、一定の成果を得られたものと推測できる。

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

助成対象事業における事業期間については、公演事業で16日間、人材養成事業で162日間、普及啓発事業で38日間を要し、合計216日間の期間において、事業を展開した。これは、公演のリハーサルや人材育成事業による練習日等をカウントしている数字ではあるが、楽器、合唱、演劇、ミュージカルなど、様々な参加型事業により、芸術文化活動の持つ魅力を地域に還元することができた。新型コロナウイルスによる影響により、事業の一部を中止せざるを得ない状況が発生したが、概ね順調に事業が進行したものと考えている。

#### 【公演事業】

一部の事業において、新型コロナウイルスの影響による日程変更や事業内容変更が生じたが、ほぼ予定どおり事業を展開できた。長岡リリックホール開館25周年を記念した市民参加型の事業や地元出身アーティストの演奏会も組み込みつつ、地域文化の拠点施設としての役割も念頭に置きながら、幅広いジャンルの公演を実施した。

#### 【人材養成事業】

一部の事業において、新型コロナウイルスの影響による日程変更や事業内容変更が生じたが、参加者の練習参加率は高く、助成金の補助により、魅力的な「学びの場」を提供することができた。

#### 【普及啓発事業】

芸術文化に馴染みのない市民でも、参加しやすい形態を模索し、初心者でもわかりやすい解説を交えた公演や、気軽に参加できるホワイエコンサート、周囲を気にせずに参加可能な3歳からのコンサートなどを通じて、芸術に触れることの楽しさを伝えることや、裾野の拡大を図ることを意識して事業を展開した。

ホールのコンセプトである「みんなのホール」を意識した、地元の芸術愛好者との「協働」がキーになっており、長岡リリックホール開館25周年の節目に、育成事業の参加者や地元アーティストとこれまで積み重ねた関係性の集大成としての事業を展開することができた。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

事業費（総支出）に関しては、補助金要望時の計上として公演事業／43,075(千円)、人材養成事業／6,698(千円)、普及啓発事業／9,902(千円)で、助成対象事業経費として合計59,675(千円)を見込んでいた。

最終的な決算事業費（総支出）は、公演事業／44,407(千円)、人材育成事業／7,071(千円)、普及啓発事業／8,704(千円)となり、合計60,182(千円)となった。概ね当初の計画のとおり予算を執行できたと考えている。

収入（総収入）に関しては、補助金要望時の計上として公演事業／21,080(千円)、人材育成事業／1,570(千円)、普及啓発事業／900(千円)で、助成対象事業収入として合計23,550(千円)を見込んでいた。

最終的な決算収入（総収入）は、公演事業／17,477(千円)、人材育成事業／1,274(千円)、普及啓発事業／522(千円)となり、合計19,273(千円)となった。要望時と比較して4,277(千円)の減収となった。コロナウイルスの影響による入場者数の減少が主な理由として挙げられる。



## (4) 創造性

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

長岡リリックホールは、文化の拠点施設として信濃川を望む文化の発祥地・千秋が原ふるさとの森に位置し、周辺には美術館や大学、産業交流会館がある。各施設と連携して事業交流を行い、人と人とが交流し、相乗効果を生み出している。

令和3年度は、長岡リリックホール開館25周年を迎え、新しい長岡の芸術文化を築く取組をさらに前へと進めていくため、幅広い年齢層の市民に多彩なジャンルの公演を提供すると共に、青少年をはじめとする人材育成事業に取り組んだ。

「公演事業」では、地元出身者で音楽活動を続けているアーティストを積極的に取り上げた。長岡市出身のフルート奏者・小山裕幾は、数々のコンクール等で受賞を重ね、海外で研鑽を積み、フィンランド放送交響楽団の首席奏者として演奏活動を続けている。2020年にフィンランド放送交響楽団による演奏会を予定していたが、新型コロナウイルスの影響により公演を中止となっていたため、今回は市民にとっては待望の演奏会となった。演奏会の前日には、中高生を対象としたフルートワークショップを開催し、地元出身の偉大なアーティストとの交流の機会を設けた。地元の新聞社に特集記事として取り上げていただくなどの働きかけを行い、集客に努めた。コンサートでは、幼い頃からの成長を見守るファンも多く、高い技術を駆使した演奏に高い評価を得た。また、世界的な和太鼓集団「鼓童」と地元悠久太鼓長岡青悠会の共演企画を開催した。鼓童メンバーによる直接指導は、オンライン等を活用しながら練習を重ね、本番前日のリハーサル等により演奏を通じた交流を育んだ。とりわけ、鼓童メンバーとの合同演奏は、来場者に深い感動を呼び、涙する観客も多かった。

日本を代表する弦楽四重奏団で東京藝術大学元学長の澤和樹が率いる「澤クワルテット」と、長岡市出身のピアニストで2016年にフランスで行われたオルレアン国際ピアノコンクールで優勝した大瀧拓哉との共演企画を開催。シューマンのピアノ五重奏曲などを取り上げ、高い技術を駆使した演奏は大きな反響を呼んだ。

開館記念日前日には、これまでに当財団が築いてきた人脈と運営ノウハウを活かし、地元縁のアーティストを多数起用し、市民力を活用した演出によるオペラ制作を実施。プッチーニの名作オペラ「トスカ」、「ラ・ボエーム」を上演し、カーテンコールでは満席となった会場からは大きな拍手が送られ、感動的な場面となった。出演者と来場者が更なる絆を深めることができ、将来への広がりを感じさせる記念事業となった。

「人材育成事業」では、文学座演劇活性化事業として、文学座演出部の生田みゆきを講師に迎えて、演劇体験ワークショップを実施。自分が演じることはもとより、相手役がそれをどう感じたかを全員で探求した。講師と充分に交流しながら、活発な意見交換ができ好評を得た。「仲道郁代プロデュース『三善晃記念 響き合うピアノ』」では、ピアノ演奏の技能向上のみではなく、音楽による社会に資する人材を育成するための講座やワークショップなども併設して開催し、受講者の意識改革を促した。参加者各々が得るものがあったようで、新しい発見があったと感想を寄せている。

「普及啓発事業」では、「東京フィルコミュニティコンサート」として、コミュニティセンターなどを会場に広域の3か所で4公演を開催した。各会場での集客や会場準備などをそれぞれの地域の住民と連携して行っており、会場に応じた曲目を首席奏者を中心に演奏し、クラシック音楽の垣根をできるだけ低くしながら相互交流を図った。

その他にも、3歳から入場可能な子育て世代を対象としたコンサートや学校アウトリーチなどの実施により芸術文化の普及に努め、新しい観客層の取り込みを図った。

このように、地域住民や関係機関等と連携して市民の幅広いニーズに応え、地域の芸術文化への関心を喚起し、同時に未来を見据えた人材育成に努めた。

## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

### ○地域拠点事業と地元アーティストの活用

東京フィルハーモニー交響楽団や劇団文学座のネットワークやノウハウの活用に加え、地元アーティストの協力により、地域に根付いた公演やワークショップを開催。地域のコミュニティセンターや学校へアーティストと向き、積極的に交流し、教育現場や地域の課題解決に貢献した。学校アウトリーチコンサートでは、地元で活躍するアーティストを起用し、子供たちに身近に音楽活動を行っている目標となるような人材を講師としている。本来は体験型の内容を計画していたが、コロナ禍であるため、鑑賞型のコンサートスタイルでプログラムを実施した。より音楽に親しみを持てるように工夫をし、会場については、音楽室などの普段、音楽に慣れ親しんでいる同じ場所でプロの演奏を聴くことで、その違いを演出している。学校アウトリーチ事業を経験し、興味をもった児童・生徒が、当ホールのジュニア育成事業に参加するなどの相乗効果を生みだした。

### ○市民協働事業の推進

地域で活動しているアーティストや長岡市出身のアーティストとのリレーションシップを活用し、質の高い事業を展開することができた。特に長岡リリックホール開館 25 周年事業として市民協働により実施した事業は、多くの市民から称賛を受けており、更なる絆を深めることができた。また、長岡市内で音楽を学んでいる小学生から高校生が日頃の練習の成果を発表する「リリックジュニアフェスティバル」もオーディションにより選出された、ピアノ、弦楽器、管楽器などの分野で演奏を行った。地域の子どもたちにとっては目標となる催しになっており、また、演奏ジャンルの異なる子ども同士の交流により、新しい発見や互いに刺激を受けることで成長の場となっている。運営には、地元の音楽指導者で構成される実行委員会の協力があり、場内係や受付、当日の進行を受け持ち、市民の手による文化発信事業の先進事例となっている。

### ○ジュニア育成事業の推進

未来を担うジュニア世代の情操と人材育成のために、芸術文化に親しむ場と技術向上の機会を提供する。当ホールでは、合唱、ミュージカル、弦楽器の3つのジャンルで事業を展開している。それぞれの分野で地元の講師と連携を図りながら、長岡市内外の催しに参加するなど実績を重ねてきた。特に弦楽器の分野では、令和元年より長岡市に誘致した「アフィニス夏の音楽祭」（日本で唯一のセミナー音楽祭）の開催により、市民のクラシック音楽に対する意識付けを強化したいねらいもあり、重要な役割を担っている。今後の同音楽祭では、世界的な演奏家や国内屈指の演奏家と共演することを視野に入れ、参加年齢の幅を広げ、小学1年生から参加できるようにクラス分けを行うなど、事業の拡大と実力アップを進めている。

### ○幅広い鑑賞事業

乳幼児から高齢者、障害を持った人や外国人等、さまざまな人がストレスなく芸術文化を楽しみながら鑑賞できる環境を整えると共に、家庭環境や経済的にホールへ来ることができない人を支援するための青少年招待事業として、主催する公演に市内の小学校4年生から高校生まで（招待者：9公演 240人）の無料招待を行い、希望の公演を楽しんでもらうことができた。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

#### (職員の雇用状況)

- ・ 正規職員 10 名と長岡市派遣職員 3 名の計 13 名について、全職員 29 名に対する割合は 44.8%となっている。正規職員については、勤続 20 年 3 名など 10 年以上勤続する職員が 6 名となっており、臨時職員については、平成 30 年 7 月の長岡市立劇場リニューアルオープンに伴って新規雇用した職員や近年に新規採用した任期付き職員が多く、平均勤続年数が短くなっている。

#### (人材の育成状況)

- ・ 勤続経験を積むことにより、事業運営や施設管理のノウハウの蓄積に努めている。また、総務課、事業課、長岡市立劇場の 3 課の異動を経験することにより、組織全体の業務把握ができる人材を育成している。
- ・ 各種派遣研修（顧客満足を高めるマナー研修、アートマネジメント研修会等）を継続実施している。

#### (今後の計画)

- ・ 経験の浅い職員については、業務別の職場内研修を実施することで、組織全体の業務把握を進めていく。
- ・ 各種派遣研修は、正規職員の熟練を図るため、専門的な研修への派遣を含め継続実施していく。
- ・ アートマネジメント研修をホール内で実施し、スタッフの意識向上と運営方針の浸透を図っていく。
- ・ 業務ごとに主任・副任を設け、責任をもって継続実施することにより、モチベーションの向上と実施スキルの継承を図っていく。
- ・ 人事考課による個人の特性に応じた育成を行うほか、正規職員については業績を確認して定期昇給を行っていく。

#### (劇場・音楽堂館のネットワークの形成)

- ・ 事業の組み立てについては、県内の他の文化施設への情報収集を行うことにより、同種の企画が同時期に被らないように、配慮している。

#### (財源の確保)

- ・ 協賛金については、年によって協賛依頼を行う公演の数異なるため、協賛者数や協賛金額について目立った傾向は見られない。コロナ禍による業績の悪化を理由に協賛金額の減額も見られるが、当財団事業への継続的な支援のスタイルは変わらず、企業協賛が定着してきていることが伺える。

#### (PDCAのサイクル)

- ・ 事業の実施や利用者アンケートにより、事業によって期待する成果が得られたかどうか、市民がサービスの内容や質に満足しているかどうか、円滑な運営が行われているかどうか、経営の効率化が図られているかどうか、といった観点・視点から点検を行い改善を図っている。その過程を通して、課題を把握し、具体的な改善策を検討していくことで機能強化につなげており、組織として向上してきている。定期的に運営会議を設け、課を越えて、情報共有や問題解決に努めている。